

令和3年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）【定時制・通信制】

学校教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成
育成を目指す資質・能力	【目的】 多様な生徒の多様な学習ニーズに対応しながら、自立への意志を持って地域の未来をひらく「人財」を育てる。 【資質・能力（霞城8C）】 ①自己肯定力 ②傾聴力 ③読解力 ④思考力 ⑤表現力 ⑥行動力 ⑦自己管理力 ⑧自立力		

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和3年度 重点目標	評価項目	自己 評価	成果(○)と課題(●)	次年度への改善点	学校 関係者 評価	学校関係者の意見 等
1 個に応じた キャリア教育 の推進	①「キャリアパスポート」の活用 ②外部人材・関係機関との連携 ③「KAJO☆進路ハンドブック」の有効活用	B	<定時制> ○外部機関と連携を密にして指導できた。 ●進路未確定者が出てしまった。	・進路意識を高めるべく、1年次から進路意識を高める指導をより一層充実させる。	B	・進路未確定者についても、なんらかの形で社会との繋がりを持ち続けられるようなサポートをお願いしたい。
			<通信制> ○卒業予定者に対して個の状況に応じた進路支援ができた。 ●キャリア形成支援のためのパスポートの活用について研究途中である。	・特別活動を主としたすべての活動を通して、キャリア発達に応じた気づきをキャリアパスポートに記入させ、自己理解につなげる。・外部関係機関との連携や情報共有を個別のキャリア形成支援に役立てる。		
2 授業の充実 による学力の 育成	①「個別最適な学び」の推進 ②「主体的・対話的で深い学び」に関する研究・研修 ③総合的な探究の時間の充実 ④ICT活用した効果的な授業	B	<定時制> ○校内研究授業を通して探究型学習を推進した ●ICTによる授業研究が必要である。	・1人1台端末を利用した授業研修及び実践を通して工夫改善を図る。各教科でより良い活用方策を探る。	B	・ICT活用は教員の負担も多いと思われる。少しずつでも活用の幅が増える事を期待したい。
			<通信制> ○スクーリングでのICT活用により、学習内容の焦点化を図ることができた。 ○「個別最適化」を目指した履修指導、個のペースに合わせた学習ができている。 ●通信制における「対話的な」「深い学び」の具体的な場面設定が研究過程である。	・GoogleClassの活用を進め生徒への伝達事項の一元化や重点化を図る。・通信制におけるICTの効果的な活用に向けて研修、研究を継続していく。 ・「対話的な」「深い学び」実現に向けて研修、研究を継続していく。		

3 生徒指導の充実による生徒の社会力の向上	①ライフスキル・ソーシャルスキル、自己有用感の向上 ②自主・自律の生活態度と公共心の育成 ③いじめ防止	B	<定時制> ○基本的生活習慣の確立に向けての指導ができた。 ●引き続きいじめ防止の徹底が必要である。	・引き続きいじめ防止を徹底していく。 ・学校行事および生徒会活動等を通じて生徒の社会力を育成していく。	B	・在校生アンケートから、本校への入学により自己有用感や社会性を身につけたと感じている生徒がみられる。学校が大切な居場所となっている生徒も多い。
			<通信制> ○総合的な探究の時間の学習内容にライフスキル講座を受講することで、自己理解や自己有用感の向上に役立っている。 ●自主・自律を目指した支援には保護者の理解が必要になる場面が少なくない。	・社会で必要とされる『霞城8C』を様々な場面で意識させていく。		
4 心身の健康増進と安心・安全教育の充実	①自己管理意識の向上 ② 本校立地に応じた訓練・研修 ③ 危機管理マニュアルの点検	B	<定時制> ○今年度は予定された諸訓練を実施することができた。 ●危機管理マニュアルの部分改訂が必要である。	・危機管理マニュアルの部分改訂を行う。 ・保護者との良好な関係構築のためにPTA 行事の充実を図る。	B	・おおむね生徒の個別の事情に対応する体制ができていていると感じる。
			<通信制> ○新しい生活様式のもと健康チェックにより自己管理意識が身についてきた。 ○ビル入居者としての防災組織を意識した防災訓練ができた。 ●実施回数不足により迅速なSCへの連携ができない時があった。	・多様な生徒への支援や配慮について情報共有を行う場の設定を継続する。 ・社会の一員としての防災教育を進める。		
5 特別支援教育の推進	①教育活動のユニバーサルデザインの推進 ②合理的配慮・支援の理解と実践 ③個別の支援計画の作成と実践 ④通級による指導の研究・研修、運用	B	<定時制> ○特別支援に関わる取組は、適切に行われた。 ●通級指導を受ける生徒が多く、担当者の負担が大きくなっている。	・通級指導については希望生徒の人数及び、担当教員の負担を考慮し、適切な規模で運営していく。	B	・本校に対して、受け皿として期待されている部分が大いにあると思う。各教員の理解をの底上げの必要性もあるが、やはり専門家のサポートが欠かせないはずである。
			<通信制> ○配慮が必要な生徒についてデータ化し個別の対応に役立っている。 ●様々な困り感を解決していくためには多方面との連携が必要である。	・ユニバーサルデザイン推進のためにICTを活用していく。 ・環境を含む複合的な課題を抱えた生徒への支援の在り方の研修を進める。		

6 魅力・活力あふれ開かれた学校づくり	①魅力ある生涯学習講座の検討 ②ガイダンス機能を果たす情報発信 ③外部諸機関との連携	B	<定時制> ○外部諸機関との連携は良好である。 ●コロナ感染症のために、生涯学習講座は2年連続で中止せざるを得なかった。	・生涯学習講座については、来年度前期についても感染症対策のために中止とした。 ・後期については未定であるが、生涯学習の重要性を鑑み、前向きに検討していく。	B	・出来なかったことに目を向けるのではなく、今出来ることは何かを考えて指導に当たるのは新しい学びにつながる道だと思う。
			<通信制> ○通信制の学習システム解説動画等を作成し、HPを活用した情報発信を積極的に行っている。 ●コロナ禍により、生涯学習講座が中止となり、総合的な探究の時間の学習内容として取り組めない生徒がいた。	・多様な生徒への支援のために外部諸機関との連携を継続していく。		